

おおむたの 新しい総合計画づくり まちづくり市民ワークショップニュース

発行：2014年9月 大牟田市企画総務部総合政策課
大牟田市有明町2丁目3 0944-41-2501



第2回ワークショップ

日時：平成 26 年 8 月 24 日（日）
午前 9 時 30 分～正午

場所：市民活動等多目的交流施設「えるる」
2 階 小・中研修室

今回は、参加者 40 名の方々が、前回出された意見をもとに「にぎわい」「暮らし」「やさしさ」「はぐくみ」の 4 つの分野、7 つのグループに分かれ、分野ごとに設定したテーマから 1 つを選び、現状や問題点を探し、その課題について意見を出し合いました。

次回は、別のテーマについて、現状、問題点と課題を話し合う予定です。

当日の流れ

1. 主催者挨拶
2. オリエンテーション
 - (1) 統計データにみる大牟田市の現状報告等
 - (2) 本日の進め方について
3. 抽出テーマについての「現状と問題点」と「課題」についてワークショップ
4. 他グループとの意見交換
5. グループごとの意見まとめ・発表

◆グループごとの意見まとめ

“ ”は、グループ名

1 班 “大蛇山” テーマ：若者がたくさん増えてにぎわっています。

若者のまちづくりに対する関心が低い、大牟田市の歴史を知らない、メディアによるPRができていないなどの問題があげられました。このような問題に対して、各小学校で大牟田市のパンフレットを作り、小学校同士で競ってはどうかなどの意見がでました。



2 班 “大蛇山まんじゅう” テーマ：たくさんの人が訪れています。

PR活動が少ない、リピーターが少ない、新しい魅力の開発が出来ていないなどの意見がでました。工業の街から観光のまちへのPRとして、イベントで巨大お好み焼きを作ったりすることでfacebookやTVメディアによる波及効果が期待できるのではないかとといった意見もでました。また、若者を集めるためにテーマパークを作るなどの意見もでました。



3 班 “未来のおおむた” テーマ：日常生活が楽しく送れています

問題として空き家の利用、高齢者の移動手段の2つがあげられました。まず、前者では住める空き家、住めない空き家を整理し、大学生に低賃金で貸す、後者では、タクシー会社と提携して低額の巡回タクシーを提供するなどの意見がでました。

総論として、高齢者が自由に情報交換できる場所を設け、小さな声一つずつ具現化していくことが良いのではないかとという意見がでました。



4 班 “有明の夕日” テーマ：日常生活が楽しく送れています

高齢者の買い物について、路線バスの廃止、家の近くにお店がない、そもそも家から出られないなどの現状や問題が出ました。足の不自由な高齢者にとって、コミュニティバスなどの導入や買い物のための見守り制度を設ける、また、近所での支え合いや若い人たちの協力が必要という意見もでました。



5 班 “ゆう” テーマ：高齢者や障がい者が生き生きと暮らしています

高齢者の外出する意欲が低いことやいきがいを持つことに関して、人づくりや環境づくりが大切であるという意見がでました。また、一緒に過ごせる場と時間の共有を図り、障がい者や高齢者との隔たりをなくす必要があるという意見がでました。自分たちが町をつくっているという意識で一人ひとりが意識改革をしてやさしいまちづくりをすることが大事だと思います。



6 班 “大蛇山ラーメン” テーマ：高齢者や障がい者が生き生きと暮らしています

自分に必要な福祉や医療の「情報」を取りにいけない高齢者のために、まずは高齢者をサポートする家族等へ制度を伝えていくことが必要という意見がでました。「コミュニティの高齢化」では、団塊世代の人が地域デビューできるしくみとしてイベントの開催やイベントで働ける場所を設けることで、次の担い手が育成されるのではないかとといった意見がでました。



7 班 “人を愛する思いやりの会”

テーマ：市民が率先してまちづくりに参加しています（参加しよう）

「次世代」と「社会の一体感」をキーワードに、くらしの場である公民館を軸にどうやったら加入率を高めていくことができるのかについて探って行きました。公民館の歴史を伝える仕組みや機会を作ることが重要だという意見などがだされ、立場や世代を超えた対話をする場を設けることでお互いが育み、相互理解を深めることで、次世代を育成していこうという話になりました。

